

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

アルツハイマー病根本治療薬の開発を目指して

治療薬探索研究部

河合 昭好 部長

2020年2月13日(木) 16時00分～
第1研究棟2階大会議室

団塊の世代が75歳を迎える2025年問題を目前に、一日も早いアルツハイマー病(AD)の根治薬開発が望まれている。これまで製薬会社を始め多くの研究者がその開発に多大の努力を傾けてきたにもかかわらず、有望視された薬剤が相次いで臨床試験で脱落してきた。そんな中、昨年第III相試験での無益性解析に基づき一旦中止となつたaducanumabが、新たに利用可能となったデータを追加し解析した結果に基づいて2020年の承認申請を予定していると発表したことは朗報と言える。

長寿研ではAD病態の理解に基づく創薬標的の同定及び検証が基礎研究者により活発に行われており、治療薬探索研究部ではそれらの標的に対するアカデミア創薬を実施して実用化を目指している。本報告会ではこれまで携わってきた以下の3つのプロジェクトの進捗を簡潔にアップデートしたい。

- ① GAB(ganglioside-bound Aβ)を標的とする先制治療薬の開発
- ② タウオリゴマーにより誘導されるシナプス毒性を消去可能な治療薬の開発
- ③ ミクログリアにより引き起こされる脳内炎症をコントロール可能な治療薬の開発

加えて、長寿研でのアカデミア創薬に携わった経験から、実用化を目指す上でより効率の良い枠組み等についても私見を述べたい。